



平成23年度2学期終業式 校長講話

平成23年（2011年）12月22日
長野県軽井沢高等学校長 内堀繁利

みなさん、こんにちは。

このところ寒い日が続いていますが、今日は、昨日までと比べると、少しですが寒さが緩みましたね。いい日に終業式ができたと思います。

今日で2学期が終わり、明日からは18日間の冬休みに入ります。

ほかの学校に比べると、夏休みが短い分、冬休みを長く取ってあります。夏涼しく冬が寒い軽井沢にある高校の特色だと思っていますが、年末年始の休みというのは、今年一年を振り返り、新しい年や将来のことについて考えるのにとってもいい機会です。休みの間に、ぜひそういう時間を確保してください。



さて、もう2か月くらい前のことになると思いますが、休みの日に仕事があつて電車に乗りました。乗り込んで中を見渡すと、休日で、しかもそれほど朝早くなかったせいでしょうか、車内は比較的すいていました。ボックス席では制服を着た、高校生と思われる女の子2人が楽しそうに話をしていました。私は入口付近の席に腰掛け、少しして読みかけの本をかばんの中から取り出して読み始めました。早く読みたい本だったのでしばらくの間は本に集中してい

ましたが、いくつか駅を過ぎ、電車がスピードを緩めたときに、ふと「そろそろ降りる駅かやあ」と思って顔を上げると、先程の女子高生2人が出口の方に向かって歩いて来るのが見えました。私が降りるのはその次の駅だということがわかりました。窓の外には、中に乗っているのと同じくらい大勢の人たちがホームに並んでいました。お年寄りの姿も見たので、自分の近くにお年寄りが来たら席を譲ろうと思って様子を見ていましたが、乗った人たちがみんな自分の前を通り過ぎて中の方に入って行ったので、もう少し本を読もうと再び視線を落としました。次の駅に着き、降りようとする、先程の女子高生2人が出口付近に立っています。「あれ、変だなあ」と思ってその子たちが座っていたボックス席を見るとそこにはお年寄りが座っていました。そのとき私は、「もしかしてこの子たちは、前の駅で車内が混むのを見越して自分が降りる駅の一駅前で立ち上がって席を空けたのではないか」と思いました。結果的にはお年寄りはみんな座ることができていましたし、私は自分の近くにお年寄りが来たら席を譲ろうと考えたのですが、この女子高生たちはそうではなく、座れる座れない以前に、とにかく「自

分以外のほかの人」に席を譲ろうとしたのではないかと。そして、もしかすると、毎回この子たちはこういうことをしているのではないかと、考えました。これは、他校の生徒の話です。

うちの生徒の話をしましょう。車を運転していて、ある駅前のロータリーに入ったときのことです。前の車が止まりました。追い越すこともできたのですが、誰かが降りてくるのだろうと思って私も車を止めました。すると降りてきたのはうちの学校の男子生徒でした。その生徒は、こちらに向かってお辞儀をし小走りで道を渡りました。渡り終わって再び「あれ？」というような表情でこちらを見て今度はゆっくりと頭を下げました。私はこういう二つのお辞儀ができる生徒がいることをとても嬉しく思いました。一つ目のお辞儀は、「誰だかわからないけれど車を止めてくれた人へのお礼」のお辞儀、二つ目のお辞儀は、私が軽高の職員だとわかり、「知っている人に対する挨拶」のお辞儀だったからです。きっとこの生徒は、知っている人に対しても知らない人に対してもいつも挨拶やお礼ができる生徒なのだろうと思いました。

もう一つ、うちの学校の話です。先々週でしたか、各階のトイレを1つずつ洋式にする工事が行われました。工事がすべて終わったあと、責任者の方が校長室にみえて、こんな話をされました：「うちの会社はいろいろな所のトイレ工事をします。公衆便所や学校の仕事もしてきました。今回は高校の工事ということで、これまでの経験から、正直大変だろうなどと覚悟をしていました。ところが、実際にトイレに入ってみると、とてもきれいに掃除されていてビックリしました。そのおかげで作業もスムーズに進みました。また、廊下ですれ違う生徒さんたちが明るく挨拶をしてくれて、気分よく仕事ことができました。素晴らしい学校だと思いました。それを直接伝えたくて事務室の方に頼んで校長先生に会わせていただいたのです」と。私は「こちらこそ、そんないい話が聞けてとても嬉しいです」とお答えしました。

今年は、3月に大きな地震と原発の事故が起き、その影響を強く受けた1年でした。9か月以上経った今でも、行方が分からない人、仮設住宅で不自由な生活を強いられている人がたくさんいます。そんな中で、一筋の明かりとも言うべきことは、知り合いがいる、いないにかかわらず、日本全国から、あるいは外国から、様々な支援の手が被災地の人たちに差し伸べられたことでした。人と人とのつながりということが感じられた1年でもありました。



また、津波に町が飲み込まれていく映像を何度も見、身近な人を亡くした人やそれまでの生活を一瞬にして失った人の話を聞きながら、「いのちとは」「生きるとは」ということを考えさせられた1年でもありました。

最初に3つの話をしましたが、いずれも、人とのかかわりをどうしていくのか、これからどう生きていくのか、ということ、年末のこの時期に改めて皆さんに考えてもらいたくてした話です。

皆さんは自分自身を大切に思い自分を成長させようと努力をしていますか。縁あってこの世に生まれた自分を精一杯生かききろうとしていますか。

皆さんは、自分の周りの人を大切にしていますか。傷つけたり裏切ったり悲しませたりしていませんか。

皆さんは、知り合いでない人に対して、失礼な態度を取っていませんか。知らない人にも挨拶をしていますか。止まってくれた車にお辞儀をし、迷惑をかけないように急いで道を渡っていますか。電車の中は公共の場所だと意識して乗っていますか。

まず、自分を大切にする。

次に、家族や友人や、知り合いといった、自分の周囲にいる人のことを大切にする。

そして、さらには、それ以外の、自分の知り合いでない人も大切に思い、気を配る。

社会・世の中というものが、人と人との関係で成り立っているものである以上、この3つのことはどうしても欠かせないことなのではないでしょうか。

自分、周囲の知り合い、それ以外の直接の知り合いでない人たち。

みんながこういうことを意識し、大切にしながら生きていったら、その場所は間違いなく過ごしやすい素晴らしい場所になるだろうし、自分自身も日々成長していけるのではないか。

それが、ずっと皆さんに言い続けている「+1～Plus One～みんなでいい学校を創りましょう」ということですし、このことは高校だけに限ったことではなく、職場でも大学でも地域社会でも日本でも地球でも、みんな同じことなのだと思います。

日本漢字検定協会が選ぶ、今年を表す漢字は「絆」でした。もともとは動物を繋ぎとめておく綱のことを言ったこの漢字が、人と人の結びつきを表すようになったそうですが、「絆」という字は「糸ヘンに半分の半」と書きます。人との絆を生み出すためには、まず自分が糸の片方の端をしっかりと持つことです。すべてはそこから始まります。そして相手にもう片方の端を持ってもらえるように、「ほかの誰でもない自分」がまず努力をすることです。相手がどうだこうだと言いつけばかり言っていないで、自分から行動を起こすことが大切なのだと思います。



今日は2学期終業式、明日からは冬休みです。最初に言ったように、今年1年を振り返り、自分のこれからについて考え、充実した生活を送って、3学期の始業式の日には全員がまた元気な姿を見せてくれることを願っています。

風邪やインフルエンザが流行り始めていますので、特に注意してください。

終わります。